

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4490100270		
法人名	医療法人 善昭会		
事業所名	グループホーム菜の花園2		
所在地	大分市佐賀関335番地		
自己評価作成日	平成25年1月25日	評価結果市町村受理日	平成25年5月28日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	平成25年2月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念に、その人らしく、自然と共に、地域と共に掲げています。出来る限りその方の家庭生活と同じように過ごしていただけるように配慮しています。グループホーム菜の花園2は、周囲を山と川で囲まれた情緒豊かな場所に立地しています。四季折々の季節感や行事、ご近所付き合いを重視し地域の中に関われる生活、昔見た事のある蛸鑑賞、花火鑑賞、季節の果物散策、時には小動物の来訪を受けつつ、こじんまりとした施設の中で一つの家族となり、尊厳の維持に努めた支援を行っています

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・自然豊かな場所にあり、散歩など日々の暮らしの中で、理念に沿った支援の実践に努めている。
- ・一人ひとりに、その人らしい役割を作り、活躍できる場面作りを支援している。
- ・各居室に避難用のタオルを準備し、利用者目線にあわせた位置に、わかりやすく避難経路を掲示している。また、緊急通報システムに近隣の人も登録してくれるなど、地域との連携を図っている。
- ・職員のチームワークが良く、連携のとれた支援に努めている。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	自然と共に地域と共に認知症が重度化しても、尊厳や権利を損なわず、その方らしいあり方を目指した理念を作りホール、相談室、に掲示し送り時に確認を行い理念の基に何が有るのかを考えながら支援を行っている	「その人らしく、自然と共に、地域と共に」という、地域密着型サービスの意義を踏まえた理念を掲げている。 全職員で理念を振り返り、共有して実践につなげている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域より定期的に行事案内を受けて参加している。近所の番犬に利用者と共に餌やりに向い、近所の方からも定期的に榊、お花などを頂いている	交通安全指導やふれあいサロンなどの地域行事に、利用者と職員が一緒に参加している。 時折、地域の方が事業所に立ち寄ってくれる。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	研修には、努めて参加し運営推進会議の中でも情報提供をしている。地域の実習生も積極的に受け入れている	/	/
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所のサービス内容の報告、リスク発生などについて、報告しご意見や質問等を受け入れ理解やご指示を頂いている	2ヶ月ごとに開催される運営推進会議では、災害時の地域連携について話し合い、緊急通報システムに近所の方が登録してくれるなど、「菜の花たすけ隊」として地域の協力が得られるようになった。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議のメンバーに市職員さんの参加もあり日常的に交流している	市担当者とは、電話や直接窓口に出向き、相談やアドバイスをもらっている。 市主催の認知症フォーラムへの参加など、協力関係を築くよう取り組んでいる。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束マニュアルや研修報告により日常的に確認しながら取り組んでいる、基本的には家庭と同じように日中は施錠せず、夜間は施錠するようにしている。又ベットの柵も手すりとして利用以外は取り外している	基本的に身体拘束をしない方針である。 新人研修や日々のケアの中で、身体拘束をしないケアの大切さを話し合っている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止マニュアルや研修報告により、日常的に学び確認しながら取り組んでいる	/	/

事業者名:グループホーム菜の花園2

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護マニュアルや研修報告により日常的に学び確認しながら取り組んでいる。実際に利用者さんご家族に後見人になられていた方もいらっしゃる。都度連絡をとり活用し支援を行っている		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居決定時に入居のご案内や重要事項の説明を行い事業所での取り組みや対応できるサービス内容に時間をかけ、ゆっくり丁寧に説明しつど応答し理解や納得につなげている		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	いつでも話せる関係づくりを目指し、利用者担当職員を設け窓口を一元化する事で訴える機会を作っている。他に苦情、相談担当者を設け時間の限定はあるが対応できるようにしている	年1回、家族アンケートを実施している。職員は、本人や家族の気持ちに寄り添いながら、話しやすい雰囲気作りに努めている。出された意見は、職員で話し合い、反映させている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定例会を行い疑問や相談などを話合っている又連絡ノートでも反映し、勤務年数や一部の職員の発言に偏らない風通しの良い関係作りをしている	「気付きノート」に、職員の意見や思いをいつでも記入できるように工夫している。出された意見は、定例会で話し合い、「職員連絡ノート」を活用し、周知を図っている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	家庭と仕事が両立できるように、勤務希望日、公休希望日を事前に記入する事が出来る働きやすい職場、職員間でお互いに話し合える職場、チームケアも大切にしている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が研修などを受けやすい環境を作り、学んだ事はすべての職員が実践指導を出る環境を作っている		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部より研修生を受け入れ、又外部へ研修に行く事でサービスの向上にむけて取組をおこなっている		

事業者名:グループホーム菜の花関2

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	管理者、担当職員を中心に時間をかけて傾聴を繰り返し行い、記録として残し職員全体がご本人の事を理解できる体制を取り、又受け入れて頂ける関係作りに努め入居後も不安等が無いが重点的に何うように努めている		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご入居前より、何度も面接と傾聴を場所を変えて行いGHでのサービス内容をご説明し、出来ない事の説明を行いつつも、出来る限りのご要望に沿えるように時間をかけご説明し理解して頂けるようにしている		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談内容によっては、必要と思われる事だけでなくその時々が必要とされる事にも対応し、又他のサービスも提案するようにしている(散髪、通院等)		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「ありがとうございます」と感謝を伝え合い、相身互いとお互いを労らいながら、日常生活を共に支え合っている		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員へ見せる顔とご家族に見せる顔が違うように、行動も違うので家での様子、GHでの様子をお互いに提供しつつ共感できる関係を作っている		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きつけの美容室に行けるよう家族に送迎の調整をしたり、地区の敬老会の催し物参加促し、馴染みの方にGHに来訪依頼を相談、お願いして、組み込んでいる	美容室や敬老会に参加したり、知人や友人など、馴染みの人に訪問してもらっている。お正月には地域の馴染みの神社の神主さんにお祓いに来てもらうなど、継続的な支援に努めている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	相性の良い利用者同士で話をする機会を作ったり、新聞の受け渡しをお願いして関わり持てるように支え合えるようにしている。孤立しそうな方には、個別相談や内線電話の取次ぎなど個別役割分担をお願いし関わりあえるように支援している		

事業者名:グループホーム菜の花関2

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	地域の利用者さんが多く退所後もご家族と顔を合わせる事が多い、挨拶や定期的なお見舞いなどからつど、経過を伺い相談にも、応じている		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	各生活場面で意向を伺いながら、把握に努めていますが、困難な場合はその方の生活歴、人生、をご家族にも伺いながら擬似的意向を組み込み把握に努めています	認知症のためのケアマネジメントセンター方式を取り入れている。 「みんなありがとうノート」に、本人の言葉や職員の気づきを記入し、全職員で一人ひとりの思いを共有し、意向の把握に努めている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個人の生活歴をシートとして作成している。都度見直しや傾聴などで変化が有った場合は、後書きとして記入を行い、日々把握できるように記録ノートも作成し変化に対応、見逃さないようにしている		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活パターンを把握し、出来る事を探したりする事で現状のADLの確認、把握に努めています		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアカンファレンス以外でも「ありがとう、気づきノート」を作り意見の集約、反映を図っている	日々のケアチェック表を作成し、3ヶ月ごとにモニタリングを行っている。 職員、家族で話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した計画を作成している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録の書き方を工夫し職員間の情報を一元化して共有できるようにすることで、気づきや見直しに生かされている		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時に必要な事で、対応でき得る事であれば、勤務調整や家族内での調整、実習生にも協力依頼(傾聴依頼)し実現している		

事業者名: グループホーム菜の花関2

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	避難訓練時には地区の方や元気サロンのメンバーの方にも声掛けを行いGHへの協力依頼をしている		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人やご家族が希望するかかりつけ医に情報提供を行い、定期往診も2週間に1度ある。通院が必要な場合には、必要に応じて職員が同行、又はご家族が同行し適切な医療が適切な時に受けられるように支援している	本人や家族が希望するかかりつけ医となっている。歯科の訪問診療や往診してくれる協力医療機関もあり、家族や医療機関と連携を図りながら、情報の共有を行っている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	隣接する事業所に(デイスサービス)看護職員やリハビリを行う職員がいるのでつと、健康管理や医療面での相談、助言の対応ができる体制を取っている		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、必ず職員、ご家族が同行し本人の情報を病院側へ提供している、又必要に応じてご家族との情報交換、お見舞い、通院支援を行っている		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に指針を用いて十分にご説明し、話し合いを行っている、主治医にもご家族の今の思いや、気持ちの変化の気付きに職員が柔軟に対応している	「重度化した場合の対応にかかる指針」を作成し、入居時に説明している。主治医と連携を図りながら、状況の変化に応じて話し合いながら、できるだけ本人や家族の希望に添った支援に努めている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルを整備確認しており、研修報告や実際に対応した場合の報告をすべての職員が確認し把握している。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災訓練や津波、地震などあらゆる場合を想定し地域の方に避難後の見守り依頼や散歩時に避難道路の確認、施設内にも入居者の方と一緒に考えた避難時方向の指示案内が有りつと、確認をしている	年2回、昼と夜間の火災を想定した避難訓練を行っている。災害時の避難経路について職員で話し合いを行っている。また、地域主催の津波避難訓練に参加している。災害時の備蓄をしている。	

事業者名:グループホーム菜の花園2

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけには、特に尊厳とプライバシーを重視した配慮を行い、又研修報告を受け常に新しい情報を取り入れ対応をしている	一人ひとりの尊厳やプライバシーを守ることが職員に話している。 職員は、誇りやプライバシーを損ねない声掛けや対応に努めている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意向を重視し、認知症が重度の方には、「はい、いいえ。」答えやすい言葉かけや難聴の方には、ホワイトボードや口の動きで理解しやすい対応又過去のデータを確認し、擬似的に模索し対応している		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ある程度の流はあるが、基本的に1人ひとりのペースに合わせた支援をしている		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	馴染みの美容院を家族と利用できるようにご家族に思いを伝えている。又一か月ごとに移動美容車もきており、カットだけでなく顔そりのみを行っている方もいる、GHでも不定期ではあるがマニキュアを塗る、化粧、マッサージもしている		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	厨房に受け取り、盛り付け、片付け、米とぎなど役割分担でお願いしており、一緒に行っている、行事食、お誕生日会はGH内で手造りしている	厨房より運ばれてくる食事を利用者と一緒に盛り付け、配膳を行っている。 団子汁やおやつ作りなど、手作りを楽しむ時間や外食など、食事を楽しむ支援を行っている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が管理し専門の調理員が調理を行っている。食事摂取量は個別に記録している。おやつや入浴後には、必ず水分補給を行い入居者の皆さんにも重要性を説明し声かけを行っている		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、食後口腔ケアの支援を行い記録として残している。希望や必要に応じて歯科医師に連絡し対応している		

事業者名: グループホーム菜の花園2

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別の排泄チェック表と介護計画に沿ってトイレ誘導を行っている。夜間ポータブルトイレ利用者にも日中はトイレでの排泄を促し自立に向けて支援をしている	一人ひとりの排泄パターンを把握している。表情や動作から、サインをくみ取り、さりげなくトイレに誘うなど、自立に向けた支援を行っている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ラジオ体操、散歩、外気浴等で適度に体を動かして頂く事やしっかり食事、水分、おやつを食して頂く事を基本として自然排便に向けた取り組みをしている。(個別記録により主治医に相談排便コントロールも行っている)		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日、好きな時間帯に入浴できるようにしている。一人ひとりのご希望や心身の状態に応じて出来る限り柔軟な対応を行っている	一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴できるよう準備しており、毎日入浴する人も多い。入浴を嫌がる人には、楽しいことと結びつけて誘うなどの工夫をして、週3回以上の入浴ができるよう支援している。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は居室外で活動して頂くように興味のある事や生活リハビリを取り入れ、離床を促している 夜間不眠の方には、温かい飲み物を提供し傾聴する支援を行っているが、継続する場合には、主治医に睡眠コントロールを相談している		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりのファイルに処方薬の説明書を保存している、又個別指示書は記録し全職員が送り等で把握している。専門医と主治医とお持ちの方には双方に情報提供を行共有して早期発見、報告に努めている		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活に役割を持って過ごしていただけるように掃除、洗濯物干し、たたみ、食器ふき、米とぎ、飼育魚のお世話、草取りなどを職員と一緒にメリハリのある生活が出来るように支援している		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個人の希望や状態に応じて、散歩、ドライブ、外食、外気浴、デイサービス、隣接施設への訪問を行っている	気候の良い時期には、庭でお茶を楽しむ時間を作っている。 週2、3回散歩に出掛けているが、ドライブなどの外出は家族対応となっており、一人ひとりのその日の希望に添った外出支援となっていない。	気分転換や五感刺激の機会となる外出支援を、一人ひとりのその日の希望に添って、職員が家族と協力しながら柔軟に支援していくことに期待したい。

事業者名: グループホーム菜の花園2

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人でお小遣いとして管理されている方や事業所でお預かりしている方もいる。カットや移動販売車、近くの購買会にご案内し個人的に希望商品が購入できるように支援を行っている		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	長期間来訪が無い方には状況に応じて伺い電話、FA をしている。希望者には毎月の菜の花便りにお手紙の同封のお声がけをしている。携帯電話をお持ちの方には、着信履歴を確認し電話のかけ直しの支援をしている		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の家具は木のぬくもりと清潔感のある色を利用している、共有のキャビネットや施設内には、皆さんで作成した作品展示コーナーを設け、日常的にBGMは昔の童謡や懐メロをかけ居心地良く生活して頂ける工夫をしている、体感温度にも温度計、室温計を使い配慮している	リビングは明るく、柔らかな日差しが入り、テーブル席やソファなど思いおもしろい場所でゆったりとくつろげる。 BGMは音量や場面にあった選曲で、居心地よく過ごせるよう工夫している。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーやベンチ、椅子を各場所に設置している。気の合う人同士や、少人数、独りで外を眺めたい方など、色々な状況に対応できるようにしているが		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で利用していた馴染みの物や愛着のある物を持ち込んで頂いている。居室ないでは、家族写真やポスターを張り、孤立感が無いように工夫している。又ご家族、主治医と相談し冷蔵庫持ち込みの方は、こっそりつまみ食いを楽しまれている	手作りのレース編みの作品や家族写真を飾り、家具や絨毯など、家族の思いやその人らしさの見える居室となっている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内には、残機能を生かせる手すりや可動式の入浴ベンチを更衣室に設置しておりその方の状態に合わせて広く利用できるように、安全確保をしている、居室内でも状態に合わせた動線を生かし安全な配置をしている		